

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No. 78

2022年

10月10日

〒680-0833 鳥取市末広温泉町211誠ビル3階(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

野党・民主団体が結集した国葬反対運動

湯梨浜9条の会代表 信原和裕

(湯梨浜以外の1市3町で組織)が加わり、9月19日の全県一斉行動の他、17日・24日の夕方、更には27日の国葬当日11時からの連続行動を決定した。それを受けて2500枚のビラを呼び掛け団体や立憲民主党・日本共産党・新社会党の各政党、連合・教組・自治労等に配布や協力の依頼をし、倉吉市役所記者クラブにも案内のビラを持参した。



雨中の集会で挨拶する長谷川代表世話人=19日、JR倉吉駅前

天候に恵まれなかった連続行動日

中部地区では、毎週月・木曜日の朝に湯梨浜9条の会が田後の「味想」前で、土曜日の夕方に倉吉駅前中部9条・湯梨浜9条合同のアピール活動がされているが、9月19日と27日の全県・全国一斉行動日の取組みは、悪天候に災いされて十分な取組みができなかった。

まず9月19日は台風14号の真最中で、当日までに東部・西部共に中止を決定していたが、中部は20数名の参加者全員が雨具を着て倉吉駅前前で集会を決定した。

集会は悪天候もあり小人数だったが、其々に手作りのプラカードを持って参加した事で人数以上のにぎやかな集会となった。

「ないか？」と自負している。特に、19日の台風14号襲来の下での実施は、歴史的な事として特筆されるべきものでは無かつたらうか？

一斉地方選挙勝利、国会解散・総選挙実施の運動を

7月の参議院選挙で自公が圧勝し、「今後3年間は国政選挙が無く、好きなようにできる」と言われているが、選挙後に旧統一協会と安倍元首相・自民党・議員個々の関係が続々と明らかになり、これまでの各種選挙の信ぴょう性が疑わしくなると共に、岸田内閣の支持率も低下し続けている。これまで野党勢力や反自民・非自民勢力は、旧統一協会・勝共連合を含めた保

守・右翼勢力の合法・非合法の各種働き掛け・工作にかく乱・分断されてきていたが、今回の騒ぎの中でそれが白日の元さらされ、「あつてはならない事」との共通認識が国民に広がりつつある。

これまで以上の政治不信・自公不信が広がっている中、国葬反対運動をこのまま終わらせてしまってはならない。立憲野党・民主団体の共闘関係を継続し、来春の統一地方選挙で民主主義破壊勢力を打破し、国会解散・総選挙実施の運動を起こしていくべきではないか？



プラカードを掲げ国葬に抗議する参加者=27日、JR倉吉駅前

先の参議院選挙戦の最終盤の7月8日、安倍元首相が奈良で応援演説中に旧統一協会信者二世の青年に銃撃されて亡くなり、その後間無しに突然、岸田首相が国葬実施を言い出し、22日の閣議で承認・決定された。理由は、安倍元首相の在任期間が戦後最長で、国政に多くの功績があったという事だった。

全国革新懇は7月28日、戦後の国葬実施には根拠法令が無く、安倍元首相には功績よりも民主主義破壊や戦争する国づくり・行政の私物化・公私混同等、負の

遺産の方が多く、「国葬は中止すべき」とのメッセージを全国に発信した。動き出した中部の取組み

8月23日に革新懇・国賠同盟・年金者組合・国民救援会・湯梨浜9条の会の各代表が集まって実行委員会準備会をし、東部・西部に合

県内各地で国葬に抗議



雨の中、国葬に抗議する参加者=27日、米子市公会堂前

☆☆米子で☆☆
多くの国民が反対する中、故安倍元首相の国葬が強行実施された9月27日、鳥取西部革新懇・米子革新懇、鳥取県憲法会議が呼びかけた「国葬強行に抗議する市民行動」が、米子市公会堂前に約50人が参加し、行われました。

各団体の代表と日本共産党米子市議がリレースピーチを行い、「国葬反対、国葬中止」のシュプレヒコールで、反対・抗議の声を上げました。

鳥取県憲法会議は、一閣議決定を根拠として国葬を行い、全額、国の税金で負担されるが、政府が元首相の葬儀を行うことや、その経費を支出する法的な根拠や基準がない中で、閣議決定のみをもって国葬を行うことは、厳しく批判されなければならぬ。また、特定の者を国葬の対象とし、甲意を事実上強制することは、法の下の平等や思想・信条の自由を定めた日本国憲法に違反する行為である。そして、安保法制の強行制定、大軍拡での戦争する国づくりの推進など、平和憲法を無視した政治を行った故安倍元首相を国葬とすることは、新憲法の下、失効した国葬令を実質的に復活させ、戦前のような戦争国家に尽くしたとする人を賛美・礼賛する、戦争する国家体制づくりに組み込む企図であり、死を悼む民心に付けこみ、戦争を賛美した時代のように国民の精神を、安倍元首相が押し進めた『平和憲法を無視した、軍事拡大の戦争する国づくり』に向けようとしていることは、断じて許されない。と主張しました。

鳥取県憲法会議
事務局 森下克彦

☆☆鳥取で☆☆
鳥取でも「憲法改悪反対鳥取県共同センター」の呼びかけで同日、約60人が参加して鳥取駅前で行われた。参加者は雨の中、手作りのプラスタールなどを持ち寄り市民にアピール。県民医連、新日本婦人の会、日本共産党、新社会党の代表がリレースピーチ（社民党はメッセージ）で国葬反対を訴えました。

27日には、倉吉、境港、日南町でも抗議行動が行われました。



プラスタールや横断幕を掲げて抗議する参加者=27日、JR鳥取駅前



県革新懇 2022年度総会を開催



挨拶する長谷川代表世話人=25日、北栄町

県革新懇は9月25日、北栄町で総会を開催し、次年度の課題と方針、決算・予算を承認しました。

総会に先立ち、全国革新懇事務室長の小田川義和さんより、「革新懇がめざす統一戦線運動とは―『市民と野党の共闘』の新たな前進めざして―」の講演をいただきました。40年にわたる運動と情勢が求められると発言。

鳥取県民医連の村口康生さんは、東部地域での食糧支援の取り組みについて、

革新懇の今日的役割を共有しました。

総会では、長谷川代表世話人があいさつし、錦織代表世話人が報告と方針提案を行いました。取り組みの補強として6名の方より発言がありました。

えねみら・とつとりの山中幸子さんは、島根原発の避難計画が命や人権を守ることを最優先したものになつていないことについて、きちんと調査し聞き取りをしながら可視化していくことに取り組んでいるとし、社会福祉施設へのアンケート活動や、安定ヨウ素剤の自給率の取り組みを紹介。

とつとりの地域自治研究所理事長の藤田安一さんは、岸田政権が代えられるという客観的状況が整ってきている一方で政権交代を起す主体的な条件が下がってきているとし、連合による野党分断のなかで、連合内に野党共闘を支持する勢力を伸ばすのに尽力しないかぎり、野党共闘の国民的な

信頼はないと指摘。国葬問題では、物価高騰で国民生活が厳しくなっているのに国葬で莫大な費用を使うのは許せないという気持ちが国民の中で実感としてつながつていて、一時的なものではなく今後も続いていくと強調。統一教会の問題は政治と宗教の癒着として捉える必要があるとし、公明党・創価学会の関係では、公明党が与党・政権党であることこの役割、本質を暴く今は好機であり、宗教と政治の問題として浮き彫りにしていく活動が必要ではないかと提起しました。

県農民連の岡田厚美さんは、米価暴落と農業問題について発言。水より安いコメの値段、世界的な食糧危機などに触れながら、食料の安全保障のために、みなさんと一緒に運動していきたいと表明しました。

新たな世話人に岡本健三さん（日南町議）、下田和実さん（空はつなぐ代表）、森本一己さん（三朝革新懇代表代行）を選出。県民連選出の世話人は、今本潔さんから雑賀敏之さんに交代しました。

お詫びと訂正
先月号裏面の高山壽雄さんの記事の見出しが「新型コロナウイルス」・「新型コロナウイルス」となっていました。正しくは「新型コロナウイルス」です。お詫びし、訂正します。